

<参考3>平成26年度広島市役所の事務・事業からの排出量

1 温室効果ガス排出量の削減目標の達成状況

平成26年度における本市の事務・事業からの温室効果ガスの総排出量（確定値）は368,558トン（二酸化炭素換算）でした。この排出量は基準年度（平成16年度）比で1.7%の増加であり、基準年度の排出量を8.5%削減するという目標は達成できませんでした。

（単位：t-CO₂）

区 分		平成16年度 (2004年度) 【基準年度】	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)	基準年度比
温室効果ガス総排出量 【目標：▲8.5%】		362,392	342,437	359,704 (17,267)	368,558 (8,854)	1.7% (2.5%)
排出源別排出 (内訳)	市の事務事業に係る事務所等からの排出 【目標：▲2.4%】	118,169	128,758	130,033 (1,275)	127,203 (▲2,830)	7.6% (▲2.2%)
	廃棄物の処理(焼却・埋立)に伴う排出(注3) 【目標：▲20.2%】	117,818	109,310	124,396 (15,086)	139,223 (14,827)	18.2% (11.9%)
	下水・し尿等の処理に伴う排出(注4) 【目標：▲3.2%】	81,928	62,821	60,940 (▲1,881)	58,968 (▲1,972)	▲28.0% (▲3.2%)
	水道水の供給に伴う排出(注5) 【目標：▲5.0%】	44,476	41,548	44,335 (2,787)	43,162 (▲1,173)	▲3.0% (▲2.6%)

(注1) … 目標達成項目

(注2) 表中の()書きは、対前年度比増減及び増減率を表す。

(注3) 環境局の廃棄物関係部署の事務所等運営に係るものを含む。

(注4) 環境局のし尿関係部署及び下水道局の庁舎・事務所等運営に係るものを含む。

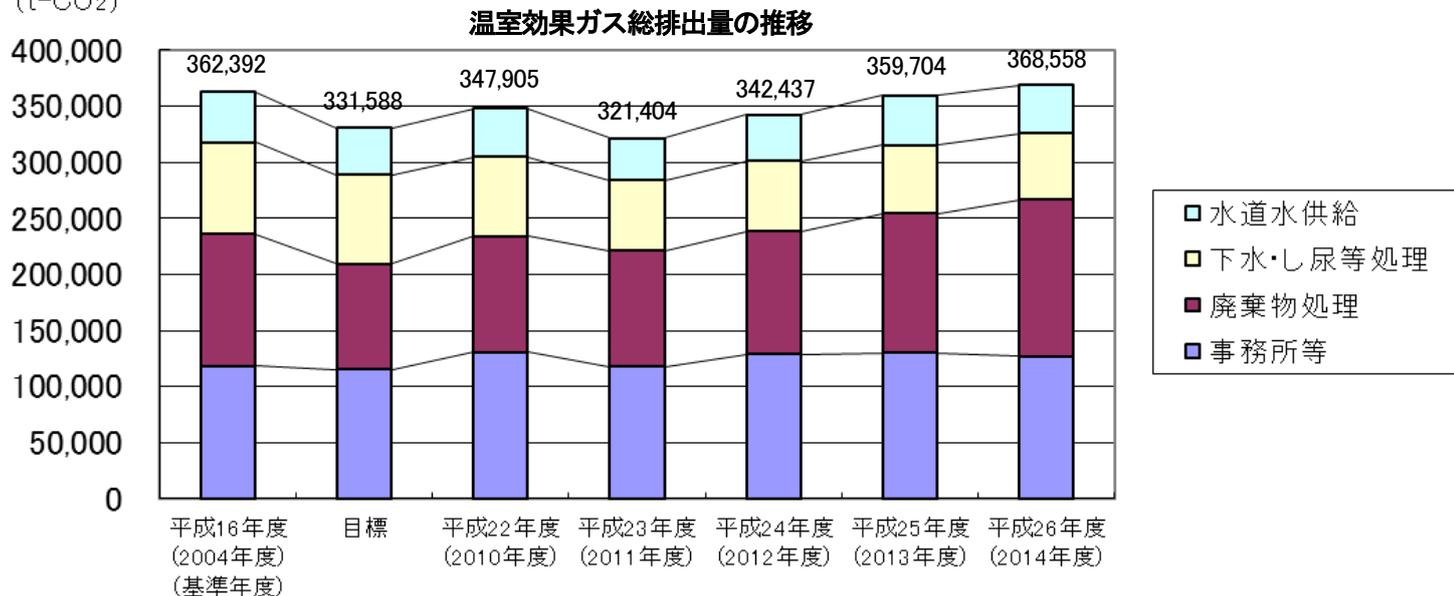
(注5) 水道局の庁舎・事務所等運営に係るものを含む。

(注6) 排出量は四捨五入して掲載しているため、合計欄の数と部門ごとの内訳が一致しない場合がある。

2 温室効果ガス総排出量の推移

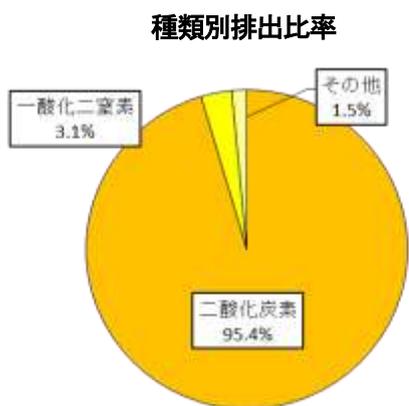
平成24年度以降、温室効果ガス総排出量は増加傾向にあり、いずれの年度も基準年度（平成16年度）比▲8.5%の削減目標を達成できていません。

(t-CO₂)



3 温室効果ガスの種別別排出比率

温室効果ガスの種別別排出比率は、二酸化炭素が95.4%と、そのほとんどを占めています。



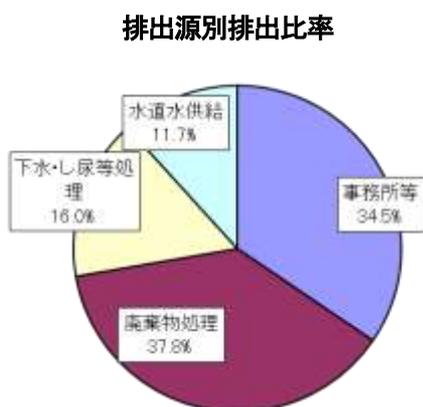
＜温室効果ガスの種別別排出量＞ (単位:t-CO₂)

区分	排出量	割合
二酸化炭素	351,422	95.4%
一酸化二窒素	11,679	3.1%
メタン	5,411	1.4%
六ふっ化硫黄	31	0.008%
ハイドロフルオロカーボン	16	0.004%
計	368,558	100.0%

(注) 排出量は四捨五入して掲載しているため、合計欄の数と部門ごとの内訳が一致しない場合がある。割合についても同様。

4 温室効果ガスの排出源別排出比率

温室効果ガスの排出源別排出比率は、事務所等からの排出と廃棄物処理に伴う排出とで、全体の7割強を占めています。



＜温室効果ガスの排出源別排出量＞ (単位:t-CO₂)

区分	排出量	割合
市の事務事業に係る事務所等からの排出	127,203	34.5%
廃棄物の処理(焼却・埋立)に伴う排出	139,223	37.8%
下水・し尿等の処理に伴う排出	58,968	16.0%
水道水の供給に伴う排出	43,162	11.7%
計	368,558	100.0%

(注) 排出量は四捨五入して掲載しているため、合計欄の数と部門ごとの内訳が一致しない場合がある。割合についても同様。

5 平成26年度の排出源別の温室効果ガス排出量の増減理由

(1) 市の事務・事業に係る事務所等からの排出

事務所等からの排出量は、電気使用量の9割以上を占める中国電力株の排出係数が減少したこと、また、平成25年度と比べて6～9月の平均気温が低く冷房稼働時間が減少したこと等により、平成25年度比で2.2%減少しました。

＜温室効果ガス排出量の増減比較＞

(単位:t-CO₂)

区 分		平成25年度	平成26年度	
			増減	増減率
市の事務事業に係る事務所等からの排出量		130,033	127,203	▲2,830 ▲2.2%
内 訳	電気使用	85,795	83,403	2,392 ▲2.8%
	その他	44,238	43,800	▲438 ▲1.0%

(2) 廃棄物処理（焼却・埋立）からの排出

廃棄物の処理に伴う排出量は、電気使用量の合計が8割以上を占める㈱エネットと丸紅㈱の排出係数が増加したこと、また、一般廃棄物のうち、廃プラスチックの焼却量が増加した結果、平成25年度比で11.9%増加しました。

＜温室効果ガス排出量の増減比較＞

(単位:t-CO₂)

区 分		平成25年度	平成26年度	増減	増減率
廃棄物の処理(焼却・埋立)に伴う排出		124,396	139,223	14,827	11.9%
内 訳	廃プラ焼却	90,452	105,230	14,778	16.3%
	合成繊維焼却	19,683	19,809	126	0.6%
	その他	14,261	14,184	▲77	▲0.5%

(3) 下水・し尿等処理からの排出

下水・し尿処理に伴う排出量は、電気使用量の9割以上を占める中国電力㈱の排出係数が減少したこと、また、故障で停止していた西部水資源再生センターの消化ガス発電設備が、平成26年度は稼働したことに伴い買電量が減少したこと等により、平成25年度比で3.2%減少しました。

＜温室効果ガス排出量の増減比較＞

(単位:t-CO₂)

区 分		平成25年度	平成26年度	増減	増減率
下水・し尿等の処理に伴う排出		60,940	58,968	▲1,972	▲3.2%
内 訳	電気使用	52,000	49,986	▲2,014	▲3.9%
	下水処理	8,400	8,468	68	0.8%
	下水汚泥焼却	0	0	0	0%
	燃料使用	349	362	13	3.7%
	その他	191	152	▲39	▲20.4%

(4) 水道水供給からの排出

水道水の供給に伴う排出量は、全電気使用量を占める中国電力㈱の排出係数が減少したこと、また、水道局基町庁舎の食堂休業（4か月）や、平成25年度と比べて6～9月の平均気温が低く冷房稼働時間が減少したこと等により、平成25年度比で2.6%減少しました。

＜温室効果ガス排出量の増減比較＞

(単位:t-CO₂)

区 分		平成25年度	平成26年度	増減	増減率
水道水の供給に伴う排出		44,335	43,162	▲1,173	▲2.6%
内 訳	電気使用	43,647	42,517	▲1,130	▲2.6%
	その他	688	645	▲43	▲6.3%